

「花の街」

初め

優しく心地よい歌詞とメロデーだ。満開の桜のような、温かいのどこか悲しみを含んでいる感じが胸を打つ。

心地よさはリズムや旋律に

せんりつ

理由があると思う。最後までなだらかなリズムの穏やかさや、各フレーズが八分休符で始まる旋律の軽快さが、心地よさにつながっていると思う。

悲しい印象については、

「泣いていた」や「さみしく」などの悲しい歌詞に長調の明るい旋律が付けられていることが、かえってもの悲しさを感じさせているのだと思う。

この曲は戦後間もなくに作られた。作者が廃墟の町と向き合い理想的な夢の世界を託したのだろうか。

終わり(まとめ)

当時の日本に思いをさせ、温かくもの悲しいイメージを伝えるように歌いたい。

音を視覚でとらえるなど、感覚を切り替えて表現すると印象的になる。

どんな特徴がどんな雰囲気をもたらししているか、具体的に説明している。

ここでは、歌詞や旋律など、音楽ならではの観点を示している。

調べたことや知識も根拠として書き添えた例。自分の表現の目標につなげてまとめた例。

